

曹洞宗

慈眼山 検校庵

「おけんぎようさま」で親しまれる尼寺

旧蓼科有料道路を警察署で山手に折れて、上りつめると検校庵。桜の名所である。季節には多数の花見客でにぎわう。小鳥の声と読経が、まぶしいほどの山の緑に吸い込まれる自然豊かな尼寺。



自然の素晴らしい山寺

三月十五日は涅槃会(ねはんえ・お釈迦様の亡くなられた日)、四月十五日は降誕会(ごうたんえ・お釈迦様のお生まれになった日)と共に検校尊縁日(検校祭)を行っている。大阪落城のころここに住んだ一人の盲目の琵琶法師が、死去の際「私を祭ってくれた

住職 鈴木 恵 道

茅野市本町西 一三一―七七
TEL七二―三〇五八

「この里に盲人は出ない」と言い残し、村人は石像を造った。その命日ともいわれ、参詣者に甘酒が振る舞われる。七月八日は施食会。諏訪地方の曹洞宗の全住職の読経で法要が営まれる。十二月初旬には成道会(じようどうえ・お釈迦様がお悟りを開かれた日)を行っている。

また、市街地内の各地域ごとに名所・旧跡を巡る散策コースをつくり、街なかのにぎわいを創出する目的で整備を進めている茅野TMOの「街なか観光ルート・オーブンガーデン」に同庵が組み込まれている。

同庵では多目的な利用を広く一般に呼びかけている。

検校堂



蓼科山 聖光寺

交通安全の祈願

今日の交通状況は、昭和四十五年聖光寺開山の交通事故死者数に比すれば死者数半減以下になり、安全と判断する人があっても、安全条件が整備されていないに拘らず、運転者の無謀に係わる事故が頻出している。

当寺は、交通安全・一路安穩を専一に祈禱する道場として、トヨタ自動車株式会社及び関係会社の発願により創建された。

本尊は救苦観世音菩薩の霊像にして、日本には稀有なる尊容を示し給う。この尊躰は遙かに天竺と中国を結ぶ天山路の駅邑湧泉の郷の龕窟に祭祀されたる観世音菩薩なり。タクラマカン沙漠を往来する求法僧をはじめ、キャンパン隊商たちの一路安穩・交通

茅野市北山蓼科湖畔
TEL六七―二三九七

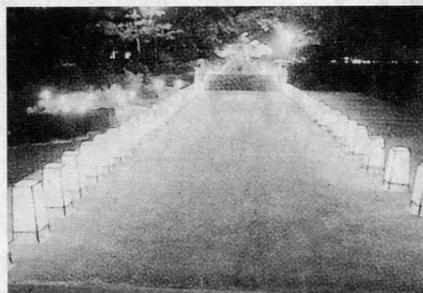
安全の祈りを千年にわたり一身に受け給う。

奉斎せる薬師如来は、ネパール国将来佛にして、七佛薬師放香報光四十大願を發願し給い、心身健康の功德を衆生に施し給う。脇侍尊者として唯識教学を大成したアサンガ(無著)・ヴァスバンドウ(世親)大士を祭祀し、両大士の完成し給うたる教学により衆生を純真寡悪の世界に導入あらんことを願う。観世音菩薩三十三化身像は、地元出身の彫刻家の故矢崎虎夫氏が制作したもの。

東日本大震災被災歿死者及び交通事故死者の諸精霊の追福作善のために、萬燈供養を蓼科観光協会と共催で、今年も八月十六日午後七時から執り行います。



本 堂



幻想的な雰囲気萬燈供養